



READ Me



ネットワークから最新のソフトウェアをダウンロードできることは、インターネットの大きな魅力の1つです。このコーナー「READ Me」では、ネットワークから入手できる最新のソフトウェアに焦点をあてて、必ず役に立つ情報満載でお届けします。まずは今月の注目ソフトから。

最新
コミュニケーション
ツール
2選



◎より使いやすくなったインターフェイス

HOTTEST TOOLS

今月の注目ソフト

1

[エンハンスド・シーユー・シー・ミー]
Enhanced CU-SeeMe
Ver.3.0B4



Ⓐ



◎ログインのデジタル名刺が交換できる



Ⓑ

◎世界中のユーザーが一覧表示される電話帳

インターネットビデオ会議システムとして、以前から人気のあったCU-SeeMeの最新版が登場した。注目は、より使いやすく変身したセンス抜群のインターフェイスだ。さらに、デジタル名刺による個人情報の交換システムや、リフレクターなしで会議室を開ける機能にも対応した。H.323の規格もサポートしたことで、ほかのメーカーのツールとの通話もできる。生まれ変わったCU-SeeMeを今すぐ体験しよう。

センス抜群のインターフェイス

まず最初に驚くのが、新しく生まれ変わったインターフェイスだ。どのユーザーがビデオとオーディオを送信しているかなどの個人情報や、チャットの内容、そしてビデオ画面などが、分かりやすい11つのウィンドウにまとめられた。まさにビデオ会議の情報ステーションといった感じだ。参加者のビデオを見なければ、左のペインから右のペインまでビデオのアイコンを引っ張ってくるだけで、

デジタル名刺を交換しよう

これまでにない楽しい機能として、「デジタル名刺」の交換ができるようになった。Phone Bookにはあらかじめいくつかの会議室が登録されているが、これらの情報もすべてデジタル名刺として保存されている(図A)。ここに

は電子メールアドレス、ホームページのURLなどが登録されていて、会議室への参加も名刺の中のリンクをクリックするだけで。会議に参加する前に、必ず自分の名刺を作っておこう。うれしいことに、文字情報だけでなく会社のロゴや自分の写真も入れられる。会議の参加者の名刺がほしい場合は、それぞれの名前を右クリックして「Get Contact Card」を選ぶ。これだけで自分のコンピュータに選択したユーザーのデジタル名刺が送られてくる。

一対一でビデオ電話

一対一で通話をする場合、相手のIPアドレスを指定する。ここで「Who's Online」ボタンを押せば、そのときCU-SeeMeを起動している世界中のユーザーが一覧表示される(図B)。この中から通話したい相手の名前をダブルクリックすれば、呼び出しができる。相

動作環境

OS: ウィンドウズ95、NT 4.0
CPU: ペンティアム100MHz以上
メモリー: 16Mバイト以上
接続速度: 28.8Kbps以上

配布元: Wite Pine Software Inc.
入手先: <http://www.wpine.com/>

手が通話に応じてくれば、ビデオ電話の始まりだ。

リフレクターなしで 会議室を開ける

これまで、3人以上でビデオ会議を開く場合はリフレクターと呼ばれるサーバーが必要だった。このバージョンからは、リフレクターなしで会議を開催できるようになった。面倒な設定も、ガイド画面に従って必要事項を入力するだけで簡単にできてしまう。テーマを決めたら自分だけの会議室を開いて、メンバーの参加を待とう。

HOTTEST TOOLS

今月の注目ソフト
2



[マイクロソフトネットミーティング]

Microsoft NetMeeting Ver.2.0 Final Release

マイクロソフト社のコンファレンスツール、ネットミーティングのバージョン2.0正式版がリリースされた。アプリケーションの共有やホワイトボード、チャットに加えて、ビデオ通話もサポート。WWWブラウザやアウトLOOKからの呼び出しもできる。現在のインターネット会議システムとして考えられるすべての機能を網羅した、まさにオールマイティーなツールだ。



① 手軽なチャットのウィンドウ

C

② ホワイトボードで画像をやりとりできる



D

動作環境

OS : ウィンドウズ95、NT 4.0
接続速度 : 14.4Kbps以上

すっきりとしたインターフェイス

実際に使ってみて感じるのは、インターフェイスが非常にすっきりしていることだ。その時点で通話可能なユーザーを表示する「ディレクトリー」、「短縮ダイヤル」の一覧、そしてビデオ画面などが、すべて1つのウィンドウにまとめられている(図A)。画面のせまいノートパソコンなどを使う場合に、余計なウィンドウがいくつも起動することがなく、快適なモバイル会議が行える。

手軽なチャットとホワイトボード

ビデオカメラやマイクがなくても、チャットと(図C)ホワイトボード(図D)で手軽にコミュニケーションができる。特に、画像データを送受信できるホワイトボードは、蛍光ペンや消しゴムなどのツールをはじめ、複数のページを使える機能が加わって、さらに強力になった。もちろん、以前からあったアプリケーションの共有機能も健在だ。

A



③ ほとんどの操作が1つのウィンドウでできる

B



④ 高画質のビデオ会議ができる



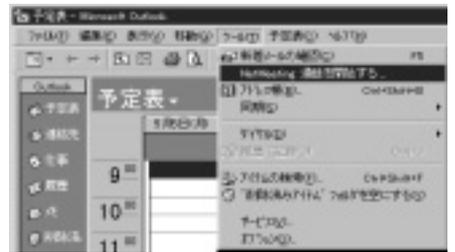
配布元 : マイクロソフト株式会社
CD-ROM収録先 : Win Netmeet
入手先 : <http://www.microsoft.com/msdownload/netmeeting.htm>

E



⑤ 転送されたファイルは安全かどうかを調べてから開こう

F



⑥ アウトLOOK 97のメニューから起動できる

ビデオ会議に対応

マイクロソフトネットショーの技術を使うことで、ビデオ会議にも対応した(図B)。送受信するビデオ画面の大きさや、画像のクオリティーのよしあしを自由に選べるため、接続速度が遅い場合でもストレスなくビデオ会議ができる。H.323の規格にも対応しており、ほかのツールとの通話も可能だ。

ファイルの転送ができる

もう1つのうれしい機能は、通話している相手にボタン1つでどんなファイルでも送信できる「ファイル転送」だ(図E)。ちょっとしたテキストファイルなら、数秒間で相手に届く。これなら、電子メールにファイルを添付して送信するよりも簡単だ。

アウトLOOK 97から一発起動

マイクロソフトアウトLOOK 97があれば、メニューに「NetMeeting 通話を開始する」が加えられる(図F)。これを選択すると、アウトLOOKのアドレス帳が起動して、ここから通話相手を選べる。電子メールや仕事の依頼に加えて、リアルタイムビデオ会議もできるようになる。この2つを組み合わせればアウトLOOKは情報のマルチステーションになるのだ。



FAQ

このコーナーでは、みなさんから寄せられたソフトウェアに関する質問や疑問に

ついてお答えしていきます。「セットアップができない!」、「こんなソフトはないの?」などなど、困っていることがありましたら質問を編集部までどしどしお寄せ下さい。メールには必ず「README FAQ係」の一行を入れてく

ださい。投稿してくれた方にはダイレクトプラスを発行します。採用分には最低でも50,000 プラス

を発行します。詳しくは384ページをご覧ください。なお、質問に対する電子メールでの回答はできませんのでご了承ください。

宛先: ip-cdrom@impress.co.jp

Q

ソフトウェアを探しています。以前、このコーナーで紹介されていた「窓の杜」や「Windows95.com」といったシェアウェアサイトを探しましたが見つかりませんでした。ほかに方法はありませんか?

A FTPサーバーからソフトウェアを探し出してくれる「Archie」というサービスがあります。

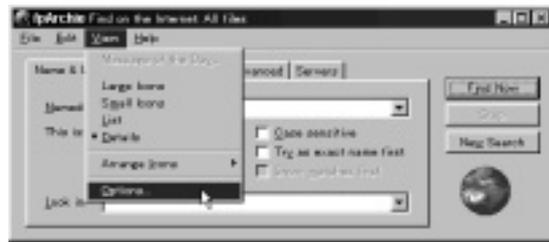
今回紹介する「fpArchie」は、Archieサービスをウィンドウズ95の「検索」と同じような操作で、簡単に利用できるソフトウェアです。



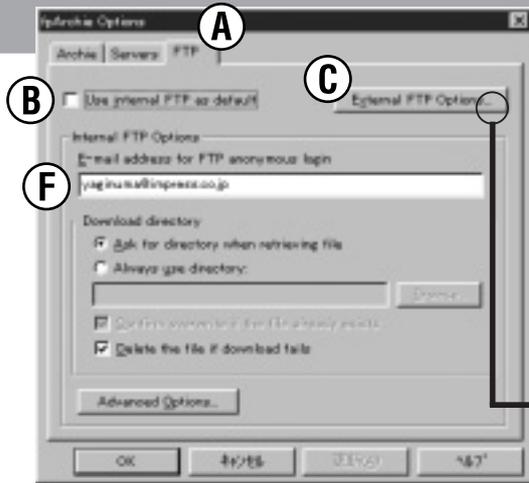
1 付録CD-ROMのフォルダーを「Win」「Fparchie」の順に開き、中にある「fpar09b1」をLhasaやWinZipといったソフトウェアで展開します。展開されたフォルダーの中にある「Setup」をダブルクリックするとセットアップが始まります。



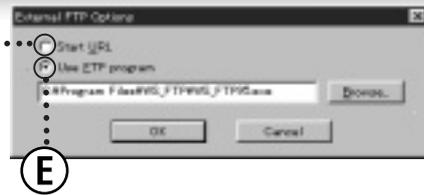
2 「Next」を押します。あとはメッセージのとおりに進めばセットアップ完了です。



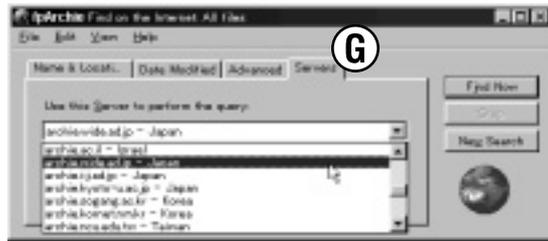
3 fpArchieを起動したら、まず「View」メニューの「Options」を選びます。



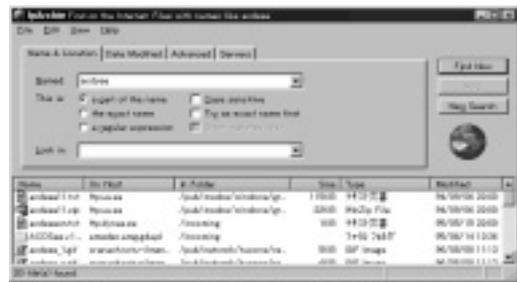
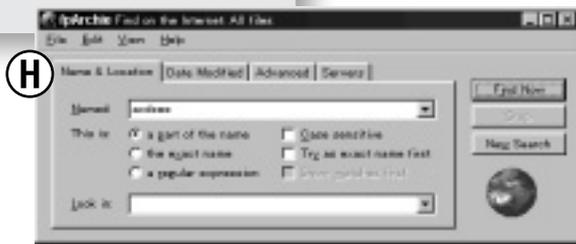
4 ④の「FTP」タブを選び、見つかったソフトウェアをどのような方法でダウンロードするかを決めます。まず、⑤にチェックを付けるとfparchieに内蔵されたFTPの機能を使います。通常はこの方法でよいでしょう。次に⑥のボタンを押すと下図のウィンドウが開きます。開いたウィンドウの⑦にチェックを付けると、ネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラといったWWWブラウザを使い、⑧にチェックを付けるとWS_FTPやCuteFTPといったFTPクライアントを使ってダウンロードできるようになります。⑨に自分の電子メールアドレスを入力したら「OK」ボタンを押します。



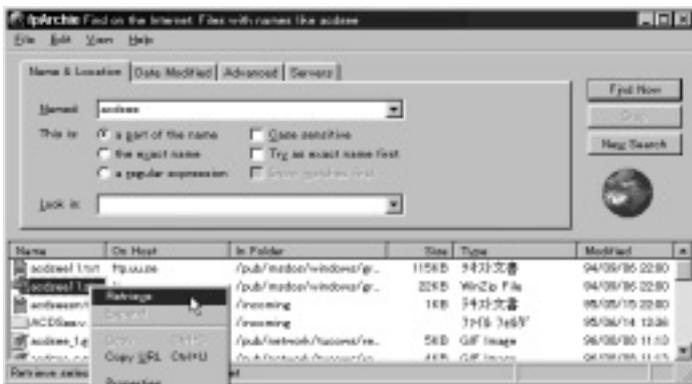
6 ⑩の「Name & Location」タブを選び、「Named」に検索したいソフトウェアのファイル名を入力します。ファイル名が正確に分からなくても、一部が分かれば検索できます。「Find Now」ボタンを押すと検索が始まります。



5 ⑥の「Servers」タブを選び、Archieサービスを利用できるサーバーを選びます。日本のArchieサーバーは「archie.ij.ad.jp」、「archie.wide.ad.jp」、「archie.kyoto-u.ac.jp」の3つが登録されています。もし、日本のサーバーで見つからなかったら海外のサーバーで試してみましょう。



7 発見されたものの中には、フォルダーやテキストファイルといったソフトウェア以外のものや、ソフトウェアでも新旧さまざまなバージョンが見つかる場合があります。そのときには「Type」の欄を見ればファイルの種類が分かります。また「Modified」の欄を見ればファイルの作成された日付が分かります。



8 該当すると思われるファイルが見つかったら、ファイルを選択してマウスの右ボタンを押します。メニューの「Retrieve」を選ぶとファイルのダウンロードが始まります。保存先を指定して「OK」を押せば、あとは待つだけです。



【CD-ROM収録先】 Win Fparchie
 【配布元】 fpWare社
 【URL】 <http://www.fpware.demon.nl/>



プログラマーにインタビュー Programmer's Cool Talk



海外シェアウェアを日本語に翻訳
あのBridge 1 Softwareの仕掛け人

ジョン・ワーフォード

普段あまりメディアに登場することのないシェアウェアやフリーソフトウェアの作者の方々をお招きして、制作秘話などを聞かせていただくというのがこのProgrammer's Cool Talkのテーマです。第9回のゲストは、数々の海外名作シェアウェアを日本語に翻訳、登録料の支払い代行からユーザーサポートまでこなす「Bridge 1 Software」を運営する、ジョン・ワーフォードさんです。

例えば、アメリカ人が使うのはほとんどパッケージで売られているソフトです。気に入ったシェアウェアがあったとしてもほとんどの人はお金を払いません。だから、海外のプログラマーは自分のソフトを日本語に翻訳したがついていきます。日本人は本当にフェアなんですね。しっかりとお金を払ってくれます。「コピー・ペースト」の作者のピーターは、彼のソフトを日本語に翻訳したとたん登録料が入り始めました。今では日本のユーザーにとっても感謝しているんですよ。

Q コンピュータを使い始めたきっかけはなんですか。

ジョン 高校時代にコンピュータ関連の授業を専攻していました。ここでマッキントッシュに触ったのが最初の出会いです。授業では、自分の好きなプログラムを作らせてもらえたんです。宿題の課題もとても楽しいものでした。でも、高校を卒業してからはコンピュータに触る機会はあまりありませんでした。

Q どうして日本で仕事をしようと思ったんですか。

ジョン 大学を卒業した時点で、運悪くアメリカでは仕事が見つからなかったんです。仕方がないので、とりあえず卒業旅行でしようと思って日本に来ました。ちょうどその時、私の友人に聖心女子大学に留学している女性がありました。彼女が、日本で英会話学校の講師の仕事を見つけてくれたんです。日本語はまったく話せませんでした。最近の英会話学校では講師は日本語を話さないほうがいいんです(笑)。

Q Bridge 1 Softwareに参加したきっかけはなんですか。

ジョン Bridge 1 Softwareを作ったクリス(クリストファー・リー)は英会話学校の上司だったんです。彼はもともとオハイオの大学で合気道の講師をしていました。桜美林大学の招待講師として来日した彼は、合気道を教えるかたわら、私と同じ英会話学校の講師をしていたんです。彼と知り合ったときに「コン



「姪の小学校では宿題を
電子メールで送ります」

【プロフィール】
生年月日：1970年5月19日
好きなもの：音楽鑑賞(ウルフルズ、安室奈美恵)
映画鑑賞、インターネット
嫌いなもの：電車、旅行、ショッピング

ピュータ関連のいい仕事はないか」と聞いてみたんです。すでに海外のシェアウェアの翻訳を始めていた彼は、「あるよ」と言いました。でも、それが何かは教えてくれなかったんです。それほどおいしい仕事だったんですね(笑)。しばらくして、クリスは故郷のハワイに帰ることになり、日本でBridge 1 Softwareの仕事を手伝ってくれるパートナーが必要になりました。そこで、私が誘われたというわけです。

Q 日本と海外とではシェアウェアに関しての意識はどう違いますか。

ジョン アメリカ人と日本人とでは、シェアウェアに対する意識はかなり違います。たと

Q 海外のほうが、シェアウェアに対する理解があるのかと思っていましたが。

ジョン 日本と、それ以外の世界全部を比べたときです。なんと、登録料は日本だけのほうが多いのです。それと、アメリカでは、シェアウェアは一部のマニアだけが関心があるものといった感じですね。金銭的な価値観も違います。日本で2,000円と言うと「安い」と感じますが、アメリカで20ドルというと財布のひもがかなり硬くなります。たとえば、日本ではくつ下が3足で1,000円と言うと「安い」と思うでしょう。でも、アメリカでは10ドル払えばくつ下が14足も買えるんです。

また、日本では銀行振り込みやオンライン登録など支払い方法が簡単ですね。海外では為替を作ったりと、本当に面倒なんです。

Q アメリカにはBridge 1 Softwareのような会社はないんですか。

ジョン Kagi.comなどはありますが、ここはソフトウェアの登録だけを扱っています。ほかにも、翻訳だけを請け負う会社やサポートだけを行う会社など、あることにはあるんですが、Bridge 1 Softwareのようにこれらをすべて同じ会社でやっているところはないですね。

Q どんな方法で翻訳するシェアウェアを集めているのですか。

ジョン 私たちが初めて翻訳したのは「デスクトップストリップ」というソフトでした。これが本当に成功したんです。あとは、簡単。



翻訳したいと思うソフトを見つけたら作者に電子メールを出します。「あなたのソフトウェアを私の会社で日本語に翻訳します。効果のほどはデスクトップストリップの作者に聞いてみてください」、これでOKです。今では、Bridge 1というだけでみんな分かってくれるようになりました。「日本語に翻訳すれば儲かる」といううわさはすぐに広まりました。最近では、「ぜひ、私のソフトを翻訳してほしい」と、たくさんの依頼を受けるようになりました。

Q ユーザーからの反応はどうですか。

ジョン たくさんのバグレポートや、要望のメールをいただいています。これがもっとも貴重な情報です。プログラマーはすべての環境でソフトウェアをテストするわけではありません。パワーマッキントッシュではうまく動いていたのに、パフォーママでは動かないといったことがよくあるんです。ユーザーからのレポートが届くと、私はすぐにハワイのクリスに転送します。クリスはこれを作者に送ってプログラムが改良されます。ユーザーとBridge 1、そして作者と、この3者の関係がうまくいっているからいいソフトが生まれるのです。

Q 自分のソフトを日本語に翻訳してほしいというプログラマーはふえていますか。

ジョン 日本でのヒットは海外のプログラマーにとってショッキングなでき事だったようです。今、ドイツのプログラマーが中心となって、スウェーデン、フランス、イタリアでソフトを作る際に日本語に翻訳しやすいように規格をそろえようという動きがあります。彼らはそれぞれ一度も顔を合わせたことはありませんが、電子メールでやり取りしているうちに家族のように仲良くなったんです。これもインターネットのおかげですね。

Q ホームページでの営業はうまくいっ

ていますか。

ジョン ホームページがなかったときには、Bridge 1といっても誰も知らなくて、うさんくさく思われたこともありましたが、今は、なにかあったら「ホームページを見てください」と言えるんです。ユーザーもアップデート状況を頻繁に見に来てくれるようです。現在、一日のアクセス数は約800といったところです。先日、ジャパンタイムズにURLが紹介されたんですが、それを読んでアクセスしたアメリカ人から「君のホームページは文字が化けている」なんてメールが来ました。当然ですよ、全部日本語なんですから(笑)。私も意地になって「漢字TALK入れてますか?」って言ってやりました。

Q 海外には優れたシェアウェアがたくさんありますが、これにはなにか秘密があるのでしょうか。

ジョン 教育のシステムが違うんです。アメリカでは小学校からコンピュータの授業があって、プログラムがやりたければいつでも教えてもらえます。私の姪の小学校では、宿題を電子メールで送るんですよ。有名なシェアウェアの1つ「プレイット・クール」を作ったのは16歳の高校生です。今はインターネットの時代です。授業では1人1台のコンピュータが与えられて、先生は「みんな好きなホームページに行きましょう」なんて言うんです。機材は、企業で使わなくなった中古品がほとんど学校に寄付されます。

Q CU-SeeMeなどのビデオ会議システムを使った授業などもあるのですか。



● Bridge 1 Softwareのホームページ
<http://www.bridge1.com/>

ジョン みんな当たり前やってますよ。今はやっているのは、昔で言えば「ペンパル」みたいなものを世界中で作って、CU-SeeMeで「国際文通」をすることです。とにかく、コンピュータを使うことはぜんぜん特別なことではないんです。貧富の差もありますが、一家に1台ではなく、1人に1台が当たり前です。ネットスケープなどの優れたプログラムが海外からしか登場しないのを見ても、日本はまだまだ遅れていますね。ジャパンタイムズの求人情報でもっとも多いのはなんだか分かりますか。英会話の先生とプログラマーなんです。日本の企業はどこも、海外の優れたプログラマーを必死に探しています。

Q ジョンさんにとってインターネットとはなんですか。

ジョン もし、インターネットがなければ私の活動は3日もしないうちにつぶれてしまうでしょう。それくらい大切なものです。でも、ほとんど家で仕事をしていますから、近所のおばさんたちは「あの人が本当に仕事してるのかしら」なんてうわさしているみたいです(笑)。

ソフト ウェア 情報募集!

編集部では、日々新しいソフトウェアを探しています。注目ツール、面白いツール、便利なツールなどを発見したら、編集部までご連絡ください。また、CD-ROMに収録されているツールがバージョンアップしているぞ!といった情報も大歓迎です。

FAQの 質問募集!

FAQではソフトウェアに関する質問を募集しています。「セットアップがうまくいかない」、「こんなソフトウェアはないの?」などなど、日ごろから思っている疑問・質問を編集部までお寄せください。宛先はip-cdrom@impress.co.jpです(電子メールでの回答できませんのでご了承ください)。

投稿募集!

「READMe」へ投稿してくれた方には、ダイレクトプラスを発行しています。採用分には最低でも50,000プラスを発行します。不採用でも少しだけ発行します。投稿には必ずインプレスダイレクト会員番号を付けてください。入会方法など詳細は384ページで紹介しています。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp